

公表

事業所における自己評価総括表 (児童発達支援)

○事業所名	多機能型療育サポート かぼの		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 25日		～ 2025年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 25日		～ 2025年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者にわかりやすい構造化された環境になっている。	活動エリアを明確にわかりやすく伝わるよう、家具やパーテーションなどを使用している。活動の内容などもアセスメント結果をもとに、利用者の理解に合わせた環境設定をおこなっている。	利用者が環境の変化にも対応できるよう、変化がある場合は、理解や特性に合わせた支援に取り組む。
2	利用者のことをよく理解し、特性に応じた専門性のある支援を提供している。	標準化された発達検査などのアセスメントや、保護者のニーズに応じて、支援計画を作成し、実施している。 また、利用者に合わせた専門的な個別プログラムを提供している。	各職員が自己研鑽に励み、さらにスキルを高め、よりよい療育を提供する。
3	本人支援はもちろんのこと、保護者支援や幼稚園・保育園との情報連携にも丁寧に取り組んでいる	定期的に面談の場を設けたり、希望がある際には相談の時間を設けている。	現在も取り組んでいるが、相談や面談の場面だけでなく、普段から積極的に保護者や園の先生とコミュニケーションをとることを続けていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他の地域で他の子どもと活動する機会が少ない。	未就園児を除いて、ほぼ全員並行通園している状況。1回の療育時間は1時間のため、地域の他の子どもとの活動することの優先度が低かった。	子育て支援拠点事業の地域イベントなどに参加し、地域の他の子どもとの交流する場を設ける。
2	ペアレント・トレーニングや茶話会など、事業所で取り組んでいる活動の認知度が低かった。	情報提供の回数が少なく、参加したくても、日程や託児も問題で参加しにくい状況の方もいた。	定期的に、ホームページやSNS等で、情報配信を行い、保護者の方がより参加しやすいような開催方法を今後も検討していく。
3			